

【件名】

鎌倉地域に乳幼児も利用しやすい公園をつくってください

【内容】

1歳の息子を育てています。

笹目町、佐助、御成、と周囲に公園がなく困っています。市の公園課にも問い合わせましたが「確かに周辺に公園はない。現在公園が作られる計画もない」とのご回答でした。

鎌倉市では鎌倉市緑の基本計画を掲げて森林の取得や保全を進めておりますが、

◇緑の政策大綱（平成6年7月・建設省）に

＜目標年度21世紀初頭＞都市公園等は、概ね全ての市街地において歩いていける範囲に公園の整備を推進するとともに、公園内の植樹面積の増加に努める。なお、長期的には、住民一人当たりの都市公園等面積を20平方メートルとすることを目標とする。

とあるような、市民にとっての身近な歩いて行ける距離の公園が鎌倉地域では不足していると思います。

山やハイキングコースはありますが、高齢化が著しい鎌倉市民や家庭で育っている幼い子が、日常的に親しみ憩うことのできる公園がありません。

乳幼児期も身体的機能や発達をする大事な時期であり、戸外でしかできない身体の使い方や学び、自然との触れ合いがあります。家庭で育っている未満児(0～2歳)未就園児にとっては、園庭という学びの場は保証されておらず、公園が貴重な戸外活動の場所のはずです。しかし公園が全くないこと、足を伸ばして辿り着いた長谷や由比ヶ浜の公園のとても貧相なことに非常につかりしています。

鎌倉地域の公園はどれも遊びや憩いの場として充実していないように見受けられます。WEBの口コミを見てもとても評価の低いクチコミが散見されます。

公園の量、質ともに乏しいことがとても子育てしづらい町だと感じています。

日々、町で保育園のお散歩の保育士さんと子ども達をみかけますが、行けるとところが唯一 だだっ広い海浜公園だけです。低年齢の子は時間の関係や体力の関係で遠くまで行けず、道路に隣接するビルのアプローチ・エントランス部分で戸外活動を、行っているのも見かけました。保育士の方々も苦労されていると思います。子育てしにくい街＝保育しにくい街。

提案として以下複数の案を挙げさせていただきます。

提案1: 由比ヶ浜の市所有の土地を公園として欲しい。由比ヶ浜3丁目258-2の土地はハゼ公園と隣接している土地で保育園とも隣接している場所です。江ノ電の踏切を渡り、由比ヶ浜大通りへ抜けるのに市民の方が日常的に通行しています。ハゼ公園は出入口が1つだけ(かつ階段のみ)の小さ

い公園ですので、この土地と繋げるようにして公園化すると西側通路に抜ける出入口もできて2つ以上の出入口の公園になれます。

提案 2:御成小学校の校庭開放を乳幼児の親子向けで利用者登録制など限定的にして、再開して欲しい。

提案 3:大掛かりな遊具を設置する等でなくていいから、市民の参画のもと、もう少し遊べる魅力的な公園づくりを始めて欲しい。

緑化をただ草木があればよしで終わらせずに、植栽を「子どもにとって」の視点から考えていただき、公園に「遊びの要素」をもっと取り入れてください。

令和元年度版の「森林・林業白書」にはSDGs 特集の中で、森林空間利用 「教育」の項目に「乳幼児期からの自然保育」という項目が初めて掲げられました。このことから、乳幼児が自然と親しみ遊び学ぶことの重要性を再確認し、その機会が減少していることを鑑み保護していこうという兆しが伺われます。

小学生ともなれば、少し遠くの場所へも遊びに出かけることができますが、乳幼児期は地域の環境が大世界です。何卒乳幼児の親子が足で行ける範囲の日常に公園を与えてください。子どもが遊び、それを見守ることのできる公園。鎌倉での素敵な子育て時を与えてください。

【回答】

由比ガ浜はぜ公園に隣接する市有地（鎌倉市由比ガ浜三丁目 258 番 2）の公園化について

御提案いただいた市有地は、現在「旧今井邸跡地」として管理しており、この土地の利活用については、平成 29 年度に策定した「鎌倉市公的不動産利活用推進方針（以下「推進方針」という。）」で方向性を定めています。推進方針では、次の世代に過大な負担を残さないことを目指し、売却や定期借地により財源を確保することとしており、現在この方向性に基づき、貸し付けを行うための準備として測量等を進めています。令和 3 年度以降、貸し付け先の募集を行って貸し付けを行う予定であり、申し訳ございませんが由比ガ浜はぜ公園と合わせて公園化する予定はありません。

いただいた御提案には添えませんが、推進方針で掲げた目標が達成できるよう取り組んでまいります。

乳幼児の親子が遊ぶことの出来る場所等の確保（小学校の校庭開放等）について

乳幼児親子に対しましては、鎌倉・深沢・大船・玉縄地域に子育て支援センターを、子育て支援センターの無い腰越地域にはつどいの広場を設置し、また、旧梶原子ども会館を活用した、かまくら冒険遊び場等、気軽に集える場を提供しております。

このうち、かまくら冒険遊び場・梶原では、戸外でも自由に遊ぶことができる場を提供しており、

お住いの地域を問わず、どなたでも御利用いただけます。

今後も乳幼児親子の居場所の充実に努めてまいります。

魅力的な公園づくり及び乳幼児の親子のための公園の整備について

本市では緑の基本計画において、身近な公園である街区公園の少ない地域を中心に街区公園の配置を検討することとしています。

しかしこれまでは、本市の特性の一つであります緑地の保全、特に広町緑地、常盤山緑地、台峯緑地のいわゆる「三大緑地」の保全に注力してまいりました。

三大緑地は現在も継続して整備を行っており、令和3年度には台峯緑地の開園の目途がつくことから、今後は街区公園等の少ない地域において、公園等の配置の検討をしてまいります。

なお、本市では、既存の公園施設や遊具を更新する際、利用者から御意見を伺ったうえで時代や地域のニーズにあった遊具を選定し、地域に求められる公園づくりに取り組んでおります。

今後は御要望を踏まえ、遊びのバランス等に配慮し、魅力ある公園づくりに努めてまいります。

令和3年（2021年）3月8日対応／回答